

神領民の心意気 木遣りで奉祝

天下泰平 令和の御代に
古き例の御遷宮

待ちに待ちたる 御聴許受けて
今日はめでたく 遷宮初日

いよいよ始まる 大宮遣し
心躍らす 伊勢の民



御聴許奉祝のため、新しい木遣り唄をつくり奉納した伊勢神宮奉仕会青年部

当日の奉祝木遣りの
動画がご覧いただけます



長野 上松・岐阜 中津川 御神木でつながる伊勢への思い

神宮式年遷宮の御杣始祭で御神木・御樋代木※を奉伐する際に用いられる伝統の技法「三ツ緒伐り（三ツ紐伐り・三ツ伐り）」が、長野県上松町や岐阜県中津川市、また神宮司庁宮林部で受け継がれています。幹の3方向から手斧で木を彫り、3力所を残して「ツル」を作りながら伐倒する方法です。この技法では、大径木を安全に狙った場所に正確に倒すことができます。



中津川にて。左から熊田貴則さん、青山裕紀さん、杣頭の鈴木卓也さん



上松にて。左から杣頭の橋本光男さん、曾我俊郎さん、池田聡寿さん

上松／三ツ紐伐り保存会・伊勢神宮木曾奉賛会

「斧を扱うには、いかに練習を重ねるかですが、保存会には若い人もいて、経験者の動きを見て練習に励んでくれています」と話す杣頭の橋本光男さん。「過去15回、御神木を伊勢に送り出したきた木曾には、300年の歴史があり、伊勢との深いつながりがあります。その間事故なし。また斧で木を伐れることは、自然と対話することが必要なんです」。保存会を立ち上げた池田聡寿さんの言葉通り、熟練の技と伊勢への強い思いが受け継がれています。

中津川／裏木曾三ツ伐り保存会（事務局・付知土建株式会社森林部）平成29年に「斧入式」が開かれ、御用材の木曾ヒノキ伐採が始まりました。「幅広く人材を集め、また中津川市役所の協力もあって恵まれた環境で練習に励んでいます」と保存会事務局の熊田貴則さん。若手が中心となり、伊勢へと御神木をしっかりとつなぐために、その日に備えています。

※御樋代木…ご神体を納める器の御用材



伊勢御遷宮委員会 会長
鈴木 健一

次期神宮式年遷宮について、天皇陛下の御聴許を拝し、本格的に準備が始まることとなりました。そして、伊勢市では令和7年2月に第63回神宮式年遷宮用材奉曳本部・奉曳団連合会の結成を予定しております。

市内の奉曳団におかれましても、お木曳行事を実施するに際し、木遣りをはじめ、荷締めなどの様々な技術が受け継がれており、今回も次世代へ技術が継承されることにより、伊勢のまちの絆がさらに強くなることを期待しております。



伊勢御遷宮委員会 委員 長
山野 稔

天皇陛下の御聴許を拝し、神宮式年遷宮の準備の始まりを皆様とご一緒にお祝いできますことを心より嬉しく存じます。

神宮様と共に歩んでまいりました我が町・伊勢市にとりましても大変喜ばしく、数年後にはお木曳・お白石持行事など市民を挙げてご奉仕の機会をいただけるものと有り難く感じております。地域一体となり諸行事に取り掛かって参ります。